

【十月の言葉（平成二十九年）】

愚痴いっばい 欲望いっばい
腹立ちいっばい 煩惱いっばい
恥ずかしいけれど これが私の姿です。

なぜ仏教は説かれてきたのか。観無量寿経に「除苦惱法（苦惱を除く方法）」、和讃に「苦惱の有情（感情や意識など心の動きを有するもの）を捨てずして」とあるように、人々の苦惱を解決するためです。どうしたら苦惱を解決できるのか、それにはまず苦惱の原因を明らかにしなければなりません。人はなぜ苦しむのか、それは無明煩惱と教えられています。無明とは真実の智慧をもたないことであり、常に自我の眼でしか見ることができず、ありのままを正しく見れない私たちの有り様です。人は自分中心の見方が強いから争い、迷い、苦しむのです。私の中に煩惱があるのではなく、この身が煩惱そのものです。縁ひとつですぐに出てきます。

聴聞（仏の教えを聞くこと）すると煩惱がなくなるのではなく、煩惱いっばいの私が知らされるのです。

この煩惱いっばいの私たちこそが、

仏さまの救いの目当てなのです。